

環境共生地域学特論実験 (2単位)

担当者氏名 板垣啓四郎

◆学習・教育目標 (到達目標を記載)

主として開発途上国を中心にして、農業・農村の実態を踏まえつつ、その成長と発展に必要な処方策を考究していく。受講者の学位論文の完成につながるように、ディスカッションに時間の大半をあてる。

◆取り扱う領域 (キーワードで記載)

農業・農村開発の基礎理論 仮説と論証 分析フレーム 現地調査の方法
 調査結果のまとめ方 調査結果の活用 データの統計的処理 論文の作成方法

◆授業の進行等について

	テーマ	内容	準備学習(予習復習)等の内容と分量
1.2	調査のための農業開発の基礎理論レビュー	特定のテーマに沿った開発理論の基礎をレビューする。仮説を立てる。	毎回授業のなかで、参考図書や資料を紹介するので、それに沿って予習・復習に努める。
3.4	学位論文のテーマに関わる関連論文の収集と整理	学位論文に関係した資料を収集・整理したうえでポイントをまとめる。	
5.6	論文の組み立て方	学位論文の構成について検討を重ねていく。仮説と論証の整合性、論文の新規性を探求していく。	
7.8	分析フレームの作り方	仮説を論証していくための分析の枠組みについて検討を重ねていく。	
8.9	現地調査の方法	現地調査のための方法の選択幅を明らかにし、最適な調査方法・調査手法を特定していく。	
10・11	調査結果のまとめ方と結果の活用	調査結果のデータをまとめていく方法を考え、その論文への活用の仕方を検討していく。	
12・13	データの統計的処理	データの統計的処理の方法を検討していく。	
14・15	論文の作成方法	論文作成上の注意点について論じていく。	

◆教科書及び資料 (授業前に読んでおくべき本・資料)

書名／著者／発行所 (発行年)

農業開発の経済学 G.W. ノートンほか著 板垣啓四郎訳 青山社 (2012年)

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所 (発行年)

必要な資料、参考書を適宜紹介する。

◆評価の方法 (レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト)

課題 70%、習得度合いの評価 30%

◆オフィスアワー

毎週水曜日の3次限 (13時～14時30分)

◆その他受講上の注意事項

学位論文についての適切な指導、助言を心がける。